

第81回 地域とつながることの意味は？

以前も同じようなことを書きましたが、大事なことですのでまた書きます。

世間からは、「障がい者の施設は世間と隔絶していて、外からはよくわからないし、近づきがたい。」と感じられている場合があります。

地理的に離れているだけでなく、社会的・心理的にも、少し世間から離れているように感じられることもあるでしょう。

事業所の側からも、一般企業を含む地域社会に少々距離を感じておられるかもしれません。

私は、色々な方法を通じてもっと地域とつながりましょう、とお話ししてきました。「工賃向上」の立場からは、販路拡大といった直接的意味もありますが、目的はそれだけではありません。地域のどんなところに事業のニーズがあるのか、どんなことに気をつけて業務を行ったらいいのか、どんな仕入先があるか・・・といった情報は、地域とつながることです。また、もし利用者さんの一般就労を目指すのであれば、一般企業などとのつながりも有効でしょう。

では、どのようにつながっていけばいいのか。ストレートに、販路開拓のための訪問といったものもありますが、もう少し、中長期的視点に立ったものもあります。

例えば、商工会・商工会議所その他の経済団体等に参加し、その活動に参加したり、役員や経営指導員等と話す機会を持つことです。経済団体は様々な部会活動、季節のイベントなどがありますので、その気になれば参加してゆくことができますし、正規メンバーになれば一般企業の経営者層にあいさつに行きやすくなります。

また例えば、商店街や町内会のイベントなどに積極的に出店（出展）すれば、地域の人存在を知ってもらう機会になります。販売活動でなくても、例えば歌や楽器が得意な利用者・保護者・職員の方々が集まって音楽パフォーマンスをやるとか、被災地支援の募金活動をするとか、他の方法で目立つこともできます。

以上は、あくまでイメージ例です。保護者や理事の方の中は、ご自身が広い社会的つながりを持っている人もおられると思います。そのような方が中心になって、地域と事業所の事情に合わせ、様々な方法で地域とつながる方法を考えてみてはいかがでしょうか。

なお、「地域とつながる」については、『「工賃向上計画」策定・実現ノウハウ集 第二部 実現へのノウハウ（令和3年～5年度対応版）』10ページ以下でもご説明しております。

<https://www.shougai-syuurou.jp/pdf/2021nowhow2.pdf>